



日本骨髄バンクの現状（平成 27 年 3 月末現在）

| | 2 月 | 3 月 | 現在数 | 累計数 |
|---------|-------|-------|---------|---------|
| ドナー登録者数 | 1,909 | 2,150 | 450,597 | 635,075 |
| 患者登録者数 | 241 | 250 | 2,758 | 44,475 |
| 移植例数 | 114 | 105 | — | 18,063 |

■3 月年代別ドナー登録者数（現在数）

| | |
|------|-----------|
| 10 代 | 2,212 人 |
| 20 代 | 70,983 人 |
| 30 代 | 145,519 人 |
| 40 代 | 183,005 人 |
| 50 代 | 48,878 人 |

■3 月の 20 歳未満の登録者 113 人

注) 平成 24 年 7 月より集計方法が変わりました。

■3 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／682 人、献血併行型集団登録会／1,398 人、集団登録会／32 人、その他／37 人

■3 月末までの末梢血幹細胞移植 (PBSC T) 累計数: 100 件

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方 (累計数) 1,146 人 ■DLI (ドナーリンパ球輸注) 療法の実施件数 (累計数) 659 件

■国際協力の現状 (2015 年 1 月～2015 年 3 月)

< 海外ドナー⇒国内患者 > 移植数 1 件：累計移植数：182 件

< 国内ドナー⇒海外患者 > 提供数 1 件：オーストリア 1 件：累計提供数：242 件

1 平成 26 年度の移植数、ドナー登録者数の実績について

平成 26 年度の移植数は 1,331 件で、前年度 (1,343 件) より 12 件減少しました。内訳は〔国内ドナー⇒国内患者〕が 1,320 件、海外バンクを介した〔海外ドナー⇒国内患者〕が 3 件、〔国内ドナー⇒海外患者〕が 8 件でした。末梢血幹細胞移植は 62 件で、前年度に比べ 43 件増加しました。患者登録者数は前年度の 3,115 人より 43 人少ない 3,072 人 (国内 2,256 人、海外 816 人) でした。

一方、ドナー登録者数は、平成 27 年 3 月末現在 450,597 人となりました。平成 26 年度の新規登録者数は 26,380 人で、前年度の 32,753 人に比べ 6,373 人減少しました。登録窓口別の内訳は、①献血併行型登録会が 17,612 人 (前年度比 2,914 人減)、②日赤固定窓口 (献血ルーム等) が 7,688 人 (前年度比 3,155 人減)、③集団登録会は 554 人 (前年度比 41 人減) でした。

今後も一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供できるよう、一層のご協力をお願い申し上げます。

2 平成 27 年度事業計画・予算について

平成 27 年度の事業計画と予算が、3 月 17 日に開催された通常理事会で承認されました。本年度は (1) ドナー登録者拡大のための施策、(2) コーディネート実施体制を整備・強化するための施策、(3) 法施行後の関連団体との連携強化と造血幹細胞情報一元化システム構築への関与、の 3 項目に重点を置きます。

(1) は 20 代を中心とした若年層のドナーリクルートを重点課題として、支援機関や地方自治体、ボランティア団体との連携を強化します。また、ACジャパンの公共広告再開 (7 月) によるマスメディアでの展開に加えて「語りべ」事業に注力します。

(2) は拠点病院の活用、条件緩和による末梢血幹細胞移植の拡大などに努めます。

(3) は関係団体との役割分担調整や造血幹細胞情報一元化システム構築に積極的に取り組みます。

予算は昨年度の実績を踏まえ年間移植 1,350 件と設定します。本年度も効率的な予算執行に努めます。



3 骨髄採取後、左中殿筋内に血腫を認めた事例について

このたび、骨髄採取後、左中殿筋内に血腫を認めた事例が報告されました。これを受け、当法人では4月2日に採取責任医師へ緊急安全情報を発出しました。次いで4月7日にプレスリリースを行いました。

また、本症例について再発防止の観点から「健康被害調査委員会」を設置し、原因調査を開始しました。調査が終了次第、ご報告します。

本症例に関する詳細については、当法人ホームページ>新着情報をご覧ください。

4 臍帯血の海外への提供開始について

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」（以下「法律」）の施行に伴い、全国6つのさい帯血バンクとの合意手続きが完了したバンクと、4月から順次、臍帯血の国際提供を開始することとなりました。今後は、臍帯血提供の連絡調整に関して、JMDP が海外バンクとの窓口となり、移植を待つ海外患者さんの救命に努めます。また、3月に開催された世界骨髄バンク機構(WMDA: World Marrow Donor Association)の春季会議において、本件について海外バンクへアナウンスしました。

5 平成 26 年度説明員研修会終了報告

平成 27 年 2 月 7 日の東京会場を皮切りに、全国 7 カ所で開催された説明員研修会が 3 月 21 日の札幌会場をもって終了しました。参加した説明員は計 315 名、この他に行政のご担当者 32 名にもご参加いただきました。研修会では「法律」施行後の状況やドナーコーディネートの現状を報告したほか、広島国際大学の学生が行っている骨髄バンク推進実行委員会「しずく」の取組事例が紹介され、若年者に向けた PR 活動に重点を置いて研修が行われました。

6 日本医学会総会の骨髄バンク PR イベント参加報告

3 月 28 日（土）に「絵本朗読会とミニコンサート」のイベントを『未来医 EXPO' 15』神戸国際会議場メインホール（日本医学会総会主催／神戸）にて開催しました。

前半は、骨髄バンク応援スペシャルユニット「TEAM ダイジナトコロ」のバニラビーンズのミニコンサート、後半は、はいだしょうこさんときよこさんによる絵本『春ちゃんは元気です』の朗読会が行われ、作者の松田のぶおさんとのトークショーも行いました。

また、4月3日に神戸ポートアイランド市民広場で献血併行型ドナー登録会を開催しました。

7 Vリーグ・プレミアリーグ・ファイナルラウンドで骨髄バンクを PR

4月4日（土）、5日（日）の2日間、東京体育館において、「2014/15 Vプレミアリーグ・ファイナルラウンド」が開催され、屋外では献血と併行してドナー登録会が行われました。また、特設ブースでは選手による募金活動が行われました。ご支援いただいた皆様、Vリーグ機構関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



8 CHAKURIKI 1 (チャクリキ ワン) 大阪会場で骨髄バンクを PR

3月15日(日)に大阪市内の CHAKURIKI 1 (チャクリキ ワン) 試合会場で骨髄バンク PR が行われ、急性骨髄性白血病を克服したノブハヤシさんが、「骨髄バンクのことを少しでも知ってほしい」と呼びかけました。ドージョーチャクリキ・ジャパン関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

9 ミュージカル「明日への扉」公演の滋慶学園へ感謝状贈呈

骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」を公演する学校法人滋慶学園グループの系列校の卒業式が3月に名古屋、大阪、福岡、東京で行われました。

「明日への扉」は1994年の初演以来135回を超える公演が行われ、18万人以上の観客を動員しており、この公演をとおして骨髄バンクを支援していただいています。卒業式典で当法人から代表者に感謝状を贈呈しました。

10 大学、専門学校等入学生向けチラシ、昨年を上回る 190 校で 4 万 5 千枚配布

大学、短大、専門学校の新入学生を対象に骨髄バンクチラシの配布協力を呼びかけたところ、全国30都道府県190校で4万5,014枚を配布、昨年の167校3万3,000枚を大きく上回る結果となりました。

都道府県別では愛知県(32校/4,175枚)、東京都(27校/9,040枚)、大阪府(22校/3,925枚)が上位でした。また、通年で学内にリーフレットを置いてくださる学校もあります。

リーフレット常設にご協力いただける学校がございましたら、下記にご一報いただきますよう、お願い申し上げます。

日本骨髄バンク 広報渉外部 03-5280-8111

11 語りべ講演会&献血&ドナー登録会で 16 名登録/米子市役所

3月15日(日)に米子市主催による語りべ講演会&献血・ドナー登録会が開催され、16人にドナー登録いただきました。野坂康夫市長がご挨拶をされ、講演した元患者と提供ドナーの方のお話が心を揺さぶり、献血に来られた方全員がドナー登録をしました。

なお、当法人では語りべ講演会の開催を推進しています。「語りべ」への謝礼や交通費は日本骨髄バンクが負担し、資料も準備します。また講演時間や内容については個別の相談に応じます。講演会や勉強会のお問い合わせは、下記までご連絡をお願い申し上げます。

日本骨髄バンク 広報渉外部 03-5280-8111

12 当法人の会議等開催予定

◆会議の傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申込みください。

| 会議名 | 公開・非公開 | 開催予定 |
|----------------|----------|----------------------------|
| 業務執行会議 | 公開・一部非公開 | 4月17日(金) 17:30~廣瀬第2ビル地下会議室 |
| 業務執行会議 | 公開・一部非公開 | 5月19日(火) 17:30~廣瀬第2ビル地下会議室 |
| 第3回アドバイザーボード会議 | 公開 | 5月20日(水) 14:30~廣瀬第2ビル地下会議室 |

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

13 骨髄採取後、左中殿筋内に血腫を認めた事例への対応について〈調整医師の方へ〉

前項3で案内のとおり、本症例の報告を受け、コーディネーターに対して4月8日付で通知を行いました。また4月9日以降、初期コーディネーター担当からドナー宛に適合通知を送付する際、ハンドブックに「非血縁者間提供ドナーの健康被害について」の通知文書の差し込みを開始しています。今後の確認検査面談、最終同意面談ではハンドブックの P61「ドナーの健康被害について」を説明する際に、コーディネーターからドナーにこの通知文書を渡し、追加説明を行います。

調整医師の先生方には、面談時にドナーより詳細な説明のご要望がありましたら、今回の緊急安全情報/プレスリリース、およびハンドブック添付の通知文書をご参照のうえ、ご対応のほどよろしくお願ひします。ご不明な点は、ドナーコーディネーター部/健康被害調査委員会担当までお知らせください。

※ドナーから要望があれば、緊急安全情報/プレスリリース「骨髄採取後、左中殿筋内に血腫を認めた事例について」を提示してください。

14 平成 27 年度からの検体保存事業について

検体保存事業については、「法律」第 45 条に規定された造血幹細胞提供支援機関の業務として、平成 27 年度より日本赤十字社（以下、日赤）が実施することとなりました。

ただし、「検体保存に協力いただく医療機関に関する依頼文書、ドナーの方および患者さんへの説明文書、採血管等の発送業務」については、日赤からの依頼により当法人が協力します（これまで通りの運用を継続）。

なお、本件については3月31日付で別途郵送にて認定施設の先生方へご案内しています。詳細は、当法人ホームページ>新着情報をご覧ください。

15 平成 27 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定更新の結果について〈認定施設の医師の方へ〉

平成 27 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取認定施設の認定更新に関して、該当施設の先生方にはお忙しいところ調査にご協力いただきましてありがとうございました。

平成 27 年度は、非血縁者間骨髄採取施設として 175 施設、非血縁者間末梢血幹細胞採取施設として 86 施設、非血縁者間骨髄移植診療科として 220 診療科、非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科として 113 診療科が認定更新されました。なお、平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの期間に新たに 3 施設が骨髄採取施設として認定されました。末梢血幹細胞採取施設は平成 27 年 3 月末現在で 86 施設となっています。

引き続きコーディネーター期間の短縮は骨髄バンクの課題となっており、今後も 1 例でも多く骨髄および末梢血幹細胞採取を受け入れていただきますよう、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。



16 平成 27 年度コーディネーター研修について<コーディネーターの方へ>

平成 27 年度の研修では、より多くの患者さんに移植の機会を提供するために必要な、コーディネート期間の短縮と選定後のドナー理由終了を減らすための方策を検討します。

また、個人情報の管理について注意喚起し、アクシデントの防止策や、問題が発生した場合の対応策についても確認を行います。コーディネーターの方には別紙「平成 27 年度コーディネーター研修について」を同封しますので、ご参照ください。

17 骨髄・末梢血幹細胞提供者由来の遺伝学的情報を含む病的意義のある情報開示に関するご意思の確認について（ご説明書）の改訂について<調整医師・コーディネーターの方へ>

平成25年2月8日に「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）が改正されたことを踏まえ審査会議で検討した結果、ガイドラインを改訂することとしました。

改訂点につきましては、同封の新旧対照表をご確認ください。「Q&A」も添付していますので、今後は「ご説明書」とともにこの「Q&A」をドナー候補者の方にお渡しください。

18 連絡事項

◆ゴールデンウィーク中の確認検査予約および検体保存事業の検体受付について

1. ゴールデンウィーク期間の確認検査・再検査の実施とSRL予約について

○確認検査

ドナーがすでに HLA (DNA) の情報を持っているか否かにより、対応が異なります。どちらに該当するかは、地区事務局から申し送りをしますので、それに従って日程調整をお願いします。

① 一般血液検査および HLA ビーズ法の場合

4/30 (木)、5/1 (金) は実施不可

② 一般血液検査のみ・確認検査再検査

カレンダー通り実施可能。 ※4/30 (木)、5/1 (金) 実施可能

○SRL の予約期限：通常どおり(確認検査実施は予約日から 4 営業日以降)。

5/7 (木)、5/8 (金) の予約は 4/27 (月) 14:00 まで

2. ゴールデンウィーク期間の東海大学における検体保存事業の検体受付について

○連休前 ⇒ 4/24 (金) までに東海大必着

※北海道・九州地区は 4/22(水)までに、それ以外の地区は 4/23(木) までに発送をお願いします。

○連休後 ⇒ 5/7 (木) 採血・発送分から受付可能

◆各種データについて

今号では、マンスリーJMDP に毎号掲載している「コーディネート件数（月次実績）」の他に、「コーディネート件数（2014 年度実績）」「コーディネート期間（2014 年度実績）」「終了理由別終了件数（2014 年度実績）」を同封します。